

クイズ まちがいさがし

絵を見て、まちがいを10カ所見つけてね。

正解者のうち、抽選で5人に図書カードをプレゼントします。



応募方法

はがきまたはファクスに①答え(どちらかの絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて秘書広報課(〒443-8601 FAX 66-1192)へ。当選者と答えは、広報がまごおり10月号に掲載します。

締切 8月13日金

6月号当選者

生田 裕菜(豊岡町)

小林 光子(大塚町)

榊原 有菜(竹谷町)

西山 月菜(西浦町)

松山 美里(緑町)

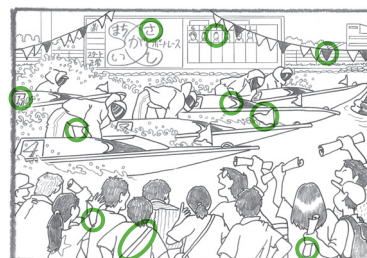
(50音順・敬称略)



画:とうふねこ座
市川雅子

6月号の答え

GO!GO!ボートレース!



伝説「仏島」

昔、兄弟の船頭がおった。ある日、石屋に頼まれ石塔を船に載せて知多の村まで運ぶことになった。この日は穏やかで、船足も軽かった。ところが、突然潮の流れが変わり、船は操られるように仏島に向かった。この辺りは花こう岩の切り立った岩が墓石のように立ち、多くの船が沈み人が亡くなっている死者の海だ。するといきなり、石塔を縛っていた縄が切れ

船もろとも海中に沈んでしまった。必死に海面に顔を出した二人が仏島へ泳ごうとした時、島の岩に怪しくゆらめく4、5人の人影：白衣を着た青い亡者が、瘦せこけた手を伸ばし、「こっちいこい、こっちいこい」

2人は震えあがって死に物狂いで泳いだ。ちよつとでも後ろを見ようものなら水中に引きずり込まれると思った。やつとこのことで、三谷の浜辺へ泳ぎ着いた。

それからしばらく経った頃、船で荷を運んでいるとまた舵が利かなくなり仏島へ流された。念仏を唱えながら恐る恐る島を見ると、沈んだはずの石塔が真っ赤な西日を受けて岩の頂上に立っているではないか。

きつとここで亡くなった人の霊が供養されたくて石塔をここに運んだのだろうと2人は考え、村に帰って海で亡くなった哀れな人々の魂が鎮まるよう僧侶にお経をあげてもらい、村のみんなで供養したそうだ。

【参考文献】三河の民話(未来社)、新編愛知県伝説集(泰文社)、まんが日本昔ばなし